



# 館長だより

山形県産業科学館

令和6年4月9日(火)

発行 館長 加藤 智 一

## 着任のご挨拶

山形県産業科学館は、令和6年度に24年目を迎えます。

平成13年元旦に霞城セントラルとともに開館して間もなく四半世紀を迎えようとしています。これまでに来館されたお客様は約630万人にのぼり、長きにわたり科学と山形県の産業を体験的に学べる施設として、皆さまに支えられてまいりました。

新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う措置として、令和2年以降、臨時休館や入場制限などにより、ご不便をお掛けしてまいりましたが、令和6年度は、ほぼコロナ感染拡大前の状態に戻りつつあり、令和2年度の来館者数が約3万4千人であったのに対し、令和5年度には「東北芸工大アートものづくり教室」や山大SCITAセンターの「みんなで楽しむスライム実験」、県立産業技術短期大学の「からくり大発見」、やまがたメイカーズネットワークによる「ロボット教室」など、フリースペースや発明工房を利用した体験的イベント開催や「未来の科学の夢絵画展」の他、県内外からの社会科見学なども積極的に受け入れ、ボランティアの方々や、たんけん科学ランド相談員の皆様のご尽力もあり、年間約18万人まで回復しており、コロナ禍前、令和元年度の約20万人まで後一息というところまで戻ってまいりました。



館長 加藤 智 一

令和4年に策定された第4次山形県総合発展計画では、政策の柱の一つである「次代を担い地域を支える人材の育成・確保」および「高い付加価値を創出する産業経済の振興・活性化」において、生涯を通じた多様な学びの機会の充実や先端技術の活用等による産業イノベーションの創出が掲げられており、本県が発展し続けるために必要な人材資質の向上が求められております。

将来を担う子ども達をはじめ、多くの県民に直接、科学や技術に触れてもらうことで、科学原理等を楽しく学習できる展示物や、県内ものづくり企業等の有する優れた技術や製品の紹介を行う企業展示ブースの設置、そして科学体験学習等ワークショップの実施を通して、科学やものづくりの興味関心を高める機会の提供を行っている本館が果たす役割は、これからも増々大きくなっていくと思われま

令和6年は干支で言うと甲辰の年。甲は物事の始まりという意味があり、辰は新しい事に挑戦して成功したり、これまで努力してきた事が形になるなど、縁起の良い年になると言われているようです。コロナ禍に耐え、地道に努力してきた成果が、実を結ぶ時なのかもしれません。

山形県産業科学館はこれからも未来を担う子ども達に思いを寄せ、県民の皆様の力強い励ましと、ご協力を支えにしながら、科学の面白さ、不思議、発見の喜び、そして産業技術に対して興味や関心を持ってもらえるような施設として、その役割を果たしてまいりたいと存じますので、今後ともご支援くださいますようお願い申し上げます。